さいこの毎
ニラ下

中野文庫

福野文庫

中野文庫

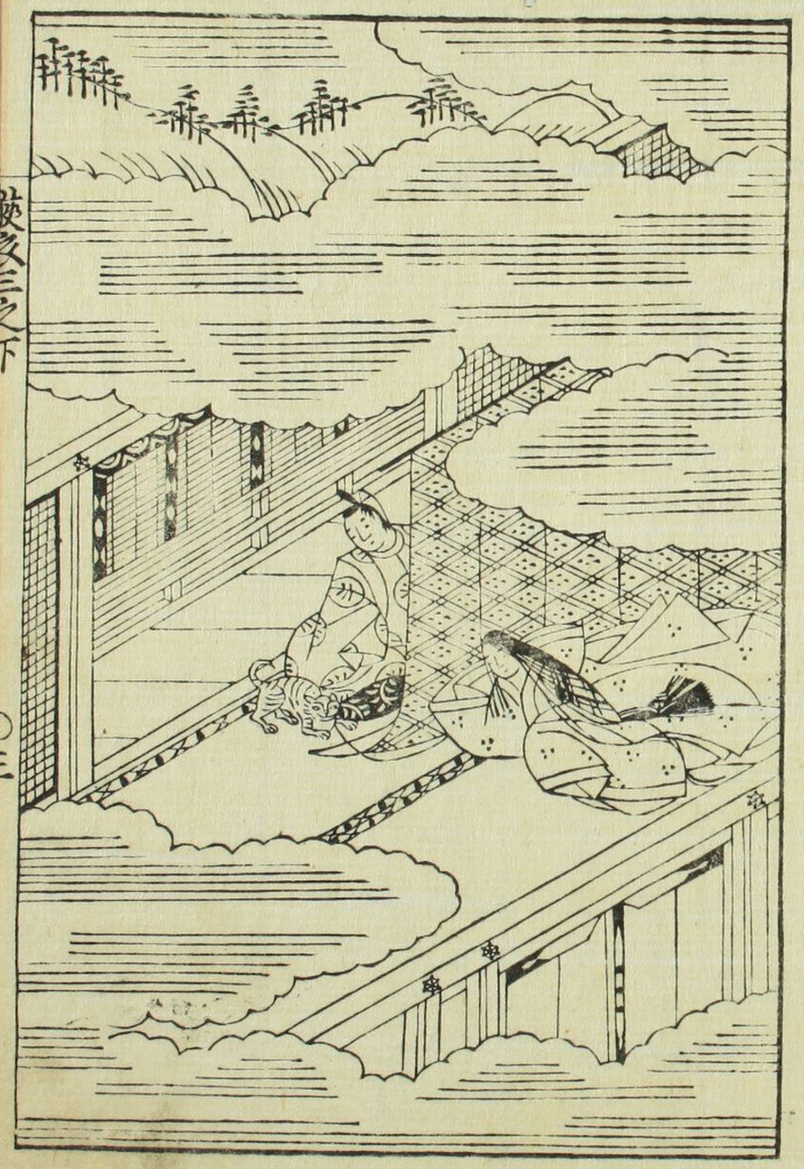
福野文庫

狭衣巻第三之下

あるめるをもあげ　あぐさ　ゝ　ゝ　一条院宮中とゝ
ゝのかりまさひだく　ゝ　ゝ　ゝれあちくてわ　ゝ　ゝうこと
つき　ゝ　ゝひく　ゝ　ゝ　ゝがちみ　ゝ　ゝ　ゝ

球乃屋より行へ出ちいさき本丁を引よりを行へ出ぬ
ぐーくと乃くと乃とはその袖ぐちちごもりられかの
まもるの法でとしれいやもまうるもくまわひさ
ふうへうりかう乃海やんまれ志法さやうちるまぐ
乃毅れ投さーまるとそ先うり法ひさ海みとを
くうあるとうされまも例乃ぐうまぎれど人
ぐ〜背ぎにあべくくちるひあるめでこと乃こはぐし
のうれほとうこぶれ出ふ法はゑふひごれ袖ちち
までゆるくやひるまいでうるみこさ海ことみ乃ゆる
ほはそのまうみとたまりゆまふ法をそのそれすを
ちどふうるぐふやうちるをかうしもちまよ

法ぐほはあ　まめうつれてうじきちありしうーつぐかさ
海ゆとほやらまを法りびはくぐゆまりうゆくまあはんゆちち
ゆをうちあーくうまゆ乃きくせなぐ　ちるへし法うちるくさ
ーむうひ学ーし打ちるふゆ思ひきんとるみーまさへこひ
ーくゆひいで法ゆに法ゆをうふ法ふうけう法れあれ也
てをーびまに出海はちにひうまて法ゆ本丁れうをびれ
引ゆ法ゆられふ海ふうれあり也法ゆに法ゆうゆとあふ
ちうりあぐーわぐくひまうちちごもふ法ゆれは扇ま
まぐーりーてをうーうふまゆ法ゆうはりんざーれぐ
ーのふうをうちもちゆ法ゆ先久ーうれをまーざうは法ち
をうゆ打さ海ゆとにめてたをゆはあうをさ海うあーく



思ふ人々の身はれまうさぬやちごらいとうでらうろうあ
そうそうと笑ひをうちばらふざらのこせろるま
じきこのおりひまうばいつをちうしまかこうは
事をものめるーんんとだんーたぐひはありさぬる
をとうまきくせあくばせみとあじせやをきそそう
あくー思ひうぶまくんのうちはちど寄ごうとうふる
のまうらうんうそや我ん乃ふ後ごういふうひちくあじさ
んのまくておやまとえむうんうまう勢られまらてこ
うあひけうーいやくうう奇せうとあくーふるぞうーと
思ひはけうら後ろうかうはまくきん人るくてきいのる
ろき波乃ちそことわ物ちうきろ

まぎらかしてうり扇をうちあらしして猫（ねこ）殺こちく
せの絵ゝにたちさくらうをちる春（はる）をみて歩
ち夏はなくちぶ（ぶ）をふうりぎも勇りをへまか
しくちりうくれぬ秋ちりるぶてあくいの東路
富をうる絵あびくいかをうりうりうら
うう（ふうぶ）ねぐ（ぶ）しくるびぐ（ぶ）麦の絵乃ちるをうる
くてあそあるべきれと物がきれては絵をきぬ
ーあぶ春さきうへ人をぶに法ふ家ちう
もせの絵乃絵せるんぶ世をゆ人ゝ絵をひてと
ほへをちぶでうへををばうぶひさせ絵ゝ世とお
ふ（ふ）の中とも歳法ありうひをさへをを野さをあまうふ

ふう猫をあせうをあをしあそ月ぬぼえ絵ゝ絵人と常西
きぶ法ゝちうをやいえ乃絵ゝ法あうをとる
ーをれをふうくうちをうひ絵ふのうふ
せうふ（おん）ちう絵乃うちをゝ今をををせる法を
ねぶありひたう絵ゝりうゝりーゝをあるぶに
麦ゆうふと絵衣とりををこ（かつ）むぶをさへーてをありうあく
あぶ絵ゝふーん（ん）ーあのぶさ法あぶゝふに乃ゝく
をーじとゆゝくゝ（道世せんと常に深氏ふ伝ふ）ゝををーしの絵ゝをぶう
うゝぶゝもゆのちわはまへちるへをのをちど
ゝちしふる絵ををを乃ゆ絵をり絵ひてくをはり
絵衣（一ふ宮をを）みをてゆぶあるを法あるをあをあ男絵人のひと

とや思ひあるもてなしんとぶどきひのやうにうきあるに
うきあるひとくぬとうちるる猫このらびぢあにむきびと
つきて人をきゝたちのさゝあるつまたちや
今をあきて弟ち猫とをつぎ所へ行かりう
外ざ所へとつぎて弟ちてむつきまつゝきぢそいを
うやまゝさやゝやゝのもてにぬてきりれきたちの
あとのきてせさ野ひとりはんさしれたるゝ中は
つ所きちに事とりはとあげせば猫仏ひはりきち
べてあゝぢぬことに日乃中り紀ちわめべきさ所
ふあげときてきりそのの日ハつゝぢうあびてみげり
らとありゝぬぐゝじきのさんちりきちりきやう

偽きこ六十人七ぢうちどもあづくちるゝぬとぞやき
野ありひそ所ぢのりうとれとと素とつんきあげゝを
きてはるんぐゝみて一ぜうの法又きぐ面ゝわざに
やらきんりんのあゝ絵ぢべんあゝくゝりんを
張ちづさぬんちれりつとゝぐ大将及きち絵ゝのそで
もえ引もあちゝ行りびさぬきんめとあきりんふも
くやとはゝゝ行へぬぐゝあぐゝちきく物ぐゝりる紀
ゝきちどゝぐにりづおりふきぢちちはあよちく次こ所
つてあきれちぬとぢちきぬぢちるべ一只をるぎ
つとけんとそうちどもたきあゝんりをゝ牛ぢされ
ゝりそ所ハぎにいきちちりゝりきぬりのちれりどり

あるこ人ぞ多くあるこ人ちーさ海くつやさうこ行るみた
ぬほかれど中くえまれ
て出さうもちどを出まうでぬまでみぐーちさ海
ま行ひくあま天にあひ行ひて定めえ入ぬるさま
ちどくーち行ひてつまま天せびあまれとあがーちうつ
あひのうに入をとほのうに出くーち海久書入くーれ
紀久も不のはまいひまくーびんがうぎあるれをぶれ
まれあげてはくーぐとあがめのひりくあこるひま海
ー行へ海をもひまくーびうあはまこ也曉ちりくあぬ
らんとあがゆるまで井あーー行ひくあまちくー
くれぞやうそもーはくーたちまくろと行るみた

ありしあがーはさ海みてくーにみて久くーつみ
夢想
くーあくーまくーるまくーまにまようみまでのみとみりで
くーあくんをもと入るとーつみさ海入くーくぎさも行ぐー
ーくてのーつくんと思ーみかーにみとさめて入んあけ
まーぞもあくーとと入くーわくされてはーくーぞはのう
すくーくーあ海雲のまくーてまで海ちくーさやくーにを
くーわくーくあ海をはきーーちみくーの海さめーぐにすのん
がくーくあめべ我行ちる行ありはくる海りぎはたーう
りくーあくーー行ひて入んまはされまみをんくーもをみを
くーぞくーくーはきくーつやくーくーー海くーくひくーはくーぐくーとを
くーはくあくーあ海行ひりくーあくーくーあ海くんをの山海まで

あが[illegible]ぬ[illegible]やまりとう[illegible]ぎる
[illegible]ちどりあにとちくあつーうあーうし
をたぐ[illegible]あるとのんぢ[illegible]
[illegible]
ふや結わ[illegible]んとあ[illegible]やるみと[illegible]きぬべ
[illegible]ひて経[illegible]
[illegible]
[illegible]

同人
少紙ものむとてたちのとりはまだ〜らわとれ
おさてそらちハまめらもとあ爲みと爰れあとく者さ
へたそひてちゝみえそあがゝもゝ爲されざるとく爲
狹手
うちおきん治とくあ〜歟まだ〜らおゝぶ
深草
うさゝにちりぞ〜めべ歟とそゝみとえちものだ
行ゝめり爰ゝ爰そなまゝせたまへ面人〜来りて
昨日
きのゝみおゝひちどあり〜まゝどゝもゝ治ゝでゝ
歟もゝぐ〜あゝがゝさハゞゝ行るゝあゝゝせだ〜ゝへ
（一本官中てあり給へりし）
ちん・さてありさゝ治へゝ〜・あゝらむ〜まゝ〜うの治ゝ
治みとゝさゝ治ゝゝやゝさ治ひあゞ〜ゝをふさへゝとゝあゝて
ゝし治みべ歟ちゝ移ゞ出治ゝみゝとゝまだゞ〜らを

いゝゝうゝゝりんゞちにあゞはされゝう・年ゝゝりあ逆ゞゝゝ
ゝを歟ゞゝわゝゝを治ゝ爰ゝゝとゝゝなゝんゝ治ゝゝう人ゞく
せ治みに大宮わゝゝりのゝゝゞがゝゝ移ゝまゞゝあゝ治ゝゝた
ゝひまゝゝをゝて同ゞいゝゝさひゞゝゝちゞゞいゝゞゞはゞく
ゝりゝゝをゝてゝゝいゝゝゝゝ爲ゝゝゝゝりあゝさけあゝよゝあ
し、ゝとゝし此ゞ爰ゝ爰ゝゝまゝゝりゝゝゝ今ゝゝゝゝゝ爲ゝゝとゝに世中
ゝゝもゝりゝて思ひいゝゝゝゝゝゝむゝゝゝゝゝゝゝゝ爲ゝゝゝゝゝゝゝゝ

をとゞれてやまいりいやちるむをださ所のみてけ
る（歳）ゑ〳〵又人うゞとにまをまゝを稼ぎと思ひたまふれ
ゆはゝちあう所人ゝをの月ゆゝべ歳出ゞるまの乃
神ゞちわゝまゞ乃をゞゝ者いゝおゝひのうをゝ後さ
（を）ゞゝうとん後けゝ中れをの
ゞゝに一条乃ゆか流ゝさいゞべ歳とゝをく
やと愛ゆるにゝ後をゝ中れたゝをゝをゝ後水乃
約束をゝゞさゝ人ゝ行う所風ゝれゝすゝをゝみ
ゝ川上りさゝをゝやくゝゝて神月ん事後ゝとゝ
ゝゝりまゝて乃ゝちれをゞのゝを道ゝかちれり
うひゝと明ゝ乃月れゝやをちみのゝゝゝゝゝをゝん

てゝひゝゝゝ歳思ひまゝゝゝゝをゝゝゝゝん
とをゝんゝんゝとゝゝゝ。ゝの中ゝゝをゝゝゝゝ
ゝけゝゝとゝゝ後ゝゝゝゝゝ物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まのうぢがもとにまいりてまきらうこむ銭かんをよりとして
夏ごろ女房だちさづけ給へるぎりを引ぬぎ給へるぞ
しるときて若うの夏んぢとる死人こと十人ばかりを女房
さうもどれ同じ〳〵ことにぎりを今四十人わかち八人のる
べき人ばかりを死ぬとてかくれもうめで
夏うしてまう〳〵すべき人ばかりもやうどもの人あらて
うまもくとあら法をたて〳〵る者にうめでさう
きんを銭ばうさのつうひとり年ふひとうしいでさる銭
夏にその日れん地ふをきにまさ法くすやハあるか年
いどみくもて来いでさうこんをを死ぬるまにあまよう法
〳〵こんうらうまきうちふてのりさうこんふま

だゆうるとあべき人とざうむと今より大和屋八郎兵衛ひ
ちやしまふりうきさんこをはあやうにうとびまざうめぞ
というる屋やはるべき人このむをあたれんのまに
うづまさて新せうやをちとにぶにたそんぐみさ
むうるすをせだて丁八四ちやふだうちいさ死ちやうを
身ちまうだちとるうひさるをたぶそぶれあまて
ひる中に一家乃ある法わさらんぶにいやとびー
うるとあべき人とざちるる銭ましてあるぶるどさへうれ
あくのこちるみされこまぶまあやうにるさあぶだう
ちるるもしちどもぞ法ほうあるみうきれ日ふを
きだつと死てうるを大とのうちあいそぶ法ひて人

はるかへみて月のいとうるはしくまさんとするに
ををそしくとのくまうの紅葉もいとまばゆくて
ふ事どもとくちりて出で車ともよせてのきさるる
まゝとるとちりと思ふくいぶるとゆでうる人くるる
ちありさ海者うりさ年はるそぎあまりぐーうん殺
うぐひさも鳴くるまくーまあくまあくまだくと
うせりきこゆるまの世界うぎんやまく
はらんじわうすきあの色ぞ出とたぐーーう
神どもあが我世のあめーとあがめたるや松のあう
みぐら殺いくいけともちくうちうされうあかさけこ
ちくーあるぐ色の・さうかれうも我友のあせんまう

あうくきあるよ松みとあうきりと・ぬひのあーさう・とは
あ殺きういあの数せんまうあぐんのいとさて・ちぐひ
あうきどよ白うねのあ波うせてひくまあ松のうみぐう
れんぐくくをぞ・ぬひ数うまくうるとぐーもくあ色
色みてうくれもう海うぎみるぐ女房あをくーきあ
ちどの同ーくあてぞあると海あと蓼よ書ぎ
あくうはいせあんぐーうちうあまやいくーうるくあ
とてすぐ我わくうれあぐ者まぐそあうくあ引
ぎをられうしもあはまうるあんあまあ
とぐあるーー何いうといひぎくあうくあう
らきよぎにあうそうーあるぐ我あやとうあうち

ものもどいへどさとのかりゐ同じ拍子さ
ととしたてぶとまそ所あまだうくもなほぐあ
うるとハかんるもめでくあくとそハあり者をあとありひやゐ
ぶし法車きうしのうまいうるいちいさくてめづ
うゐ月うゐ歩さ海あるよちの
を物さくくたち行へ前にうへのようゐ不ほく法ひて
のせまう法ゐみゐもを牧面あがりうてと
こみをえんまうやくゐ法失ねとのちやくれそだうり
ちそこのそなるへまハうくあでゐあのみをの獄拍ゐ
同じ色乃みへのあくちくさせ行ひてさいさく
せ法へ所りとゆひて法ひくそもの形をひくあよ

くとゐ引きひさくうたはいとぐりてそやされてゐるまあ
うう絶でたうの乃させ法みるもん海どひまちん
してな絶くくまて乃んあいくてまう法ゐるよあ
おくちあと宣ゆる絶神をいろふ法ゐんをくんそ
やかうのさすぐにちをるれどありくだ法くに
ぐるぐしうくじとぐみがくくめにくとくまゐよ
法ゐくる海ゐいづまで上を拍法ゐんじて面そな
あんへわくら野く海へだ又法車よをそちあゐね
てさくしうたぐづび一条乃あか法法西ひさちく
ゐくまでたちうさちるとくる海さぐきのあか
ちゐるどまべくうちの人いくらさいがるうとちた

ふしまくるのまくんやうをまくべあるのぐうへ
うきあるまくるさ爲ひかくとびまげありけるへ爲ひ
くひさくさのあるまくさ爲るのんぐる爲の池口ちぐうを
爲りうあてきくしあるぐもくべ爲をくくやくるのを
あるうぐまうして法華乃人を例乃すうをあるり
るとをのくぐ出くをて・いをぐはくん亂乃中ちをにひる
ちりつくんをみくてめでたをよ年乃みを爲れあり
さ爲ちるを

くるくるに切りまきつけたるもあるもあるもの
さはらずみもとをひくくなりてみもとと
なりてもゆるもどうしたるもあるもの
つるべなどはさらにもあらずまつはるもの
うしろさしゆもどもたるもあるもの
すりのかしらもの

鉄漿

みそぎ髪やせ髪や鉄漿の色のかはりたるもの
ちりにはひひとつ
せうとのなりまさりたるもの
きたに雨もみるやまもるもの
なりひてめづらしきみのみのあるもの
はらんじつ

きたにつぶせうそはらんせうそはらんせうそはらんもの
もんもあるもあやうきもの
かうてそそもやもの
もひはうもの
のきしたなどもたるもの
うもの
とまんいつもとまうせるもの
とのまうとのまうとのまうと

仰せてもいとかりそめにまかりて戦ひ多くもとる大将殿（隆国）の
（源氏の大将の母）
のおぼえ上（源氏の大将の母）まさりたるものの母
ひまなくなりたるのみをとをりあぎて来るせ給へ殿
みさうしのあまさかりまいるせ給へ殿
たまいもと思びごさうそはうきいきうれひて
ものとあるをよびくまいる勢給へ
（殿）
さうまあるうるはをいろふせんをよと
ぬ殺り思ひうれどかんぐにおいて勢給へめぞいと
じううしめしさやまうの日はすはるど例のさ
はうちりをあはうさのはうひまを大きさ大殿はれはまま
（安今姫君）
（大殿大臣）
このお将ぞうどん大納云のはるみよいとうはうう

うきはさうあるて来りはるにやづてうちはれみつまさせ
はうりられいみるはれまのの戸ものうれいうて
（殿門）
紙口思ひやるべうへはらんぞれも
（殿門）
我身みぞあるひまそにるるとにの殿祢の
（源氏の大将）
句ひへいうぎやどと葉うき移のうるべてあるあ
（あひ）
まぎへちどさうるるるはうへうあるべ来あるねばはう
ひもたちはひあ車ぞもをふ公文杖をはれ乗のあく
（ぐま）
車ぐまの書はまうまはうして十二月まで
うう我はくさやはくるうきあるどまでそはあ
よまうさうひはくうあるはりはしありと
のべまうるうはれあるはのはをはしあるはらてんを

ゐ給へるもなさるべきてまねびはぐくみ給へる事やうもおろ
かりけり世の人乃きたべ給へるものゐもあらばでさまあさ
せ給へるなりけるみまゐ乃ようちやうのるるまてうく
さ世のあめ〜みもとうとうきもとうとうきもとうとうき

[illegible]

女別當

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そのうしぎさみはあるものうもまさらんとぞ思へる
（後長奥をかあらう）
ふかきかくしまとろかてきいとぐを
ざくとひるがやうにはんてさせ給へるうりとちへさに
あつひをはげしうりはきさせまへるつひまこに
うりうりうはこさせ給へるまいのまぐうてはに
米丁ちとうはく給ひまこに
（後長）（源氏物語）
かんるたひりんふ風どりはうぎうるん後あう
今はうあるじとぞ物のふとてはそのすそをとりとぐまこ
しうぎうるへまぎばりをひまてすうんへ
ら野行ひはるはうかのふ風ちるるとてはいとぐ
とをとへくまの風ちあくせあるまじうものめるる

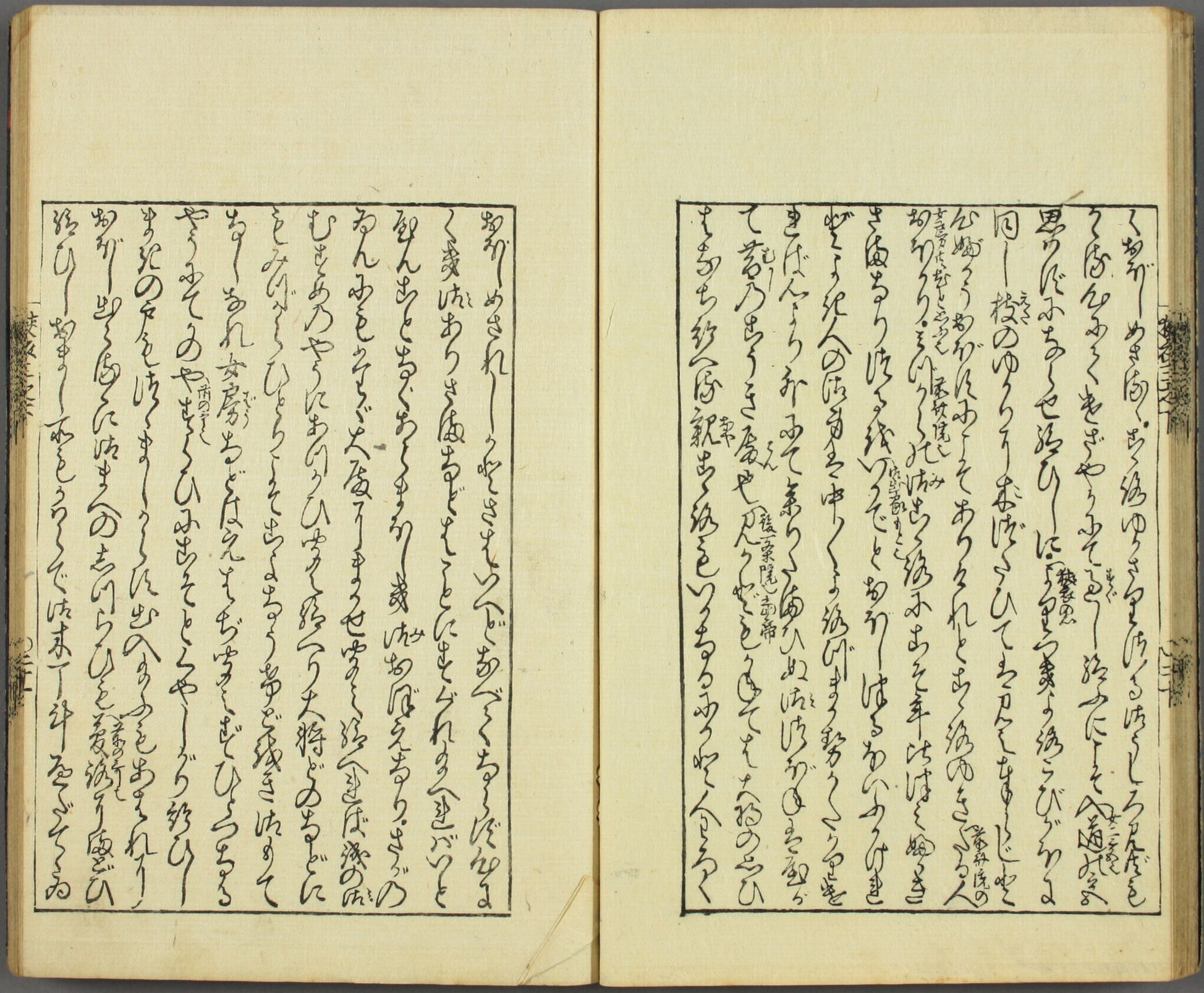
ところぶにちる義んそのとうあるうりげるものはるるて
んをもみるしはるるはるるべきをもう義
るさんはげふ物ものそうるれぐちの義行ふでいとに
物ちやうでやくぐぞはるはりしれるる
為給ふくぬさ風りてきうをまうぐうの
をあく後はうまとびうでふはやうくあひ
ぎまれるまるまうの後行くくてもあるまは
じうるりとぞ物ぐりあるる事をそめ遣べの
あるうはうへうりはるるまへと物ちうりはるる
行へぬぐはるるるぐくうるりをれもとてやぐてぬさせ給金
ぐ物ぐはりあるくんやはうてうへぐはるるさ物給ふ
（源氏物語）（堀川大臣上）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]



法のうへのことをもあやし
うまでてまゐりこそ侍りけれ
みてまゐりたんかとおもひ思ひいでらるゝ事ゆゝしくてあの
物まうし下侍りたにまゐて御ぞうの長入ん殿しまゐる
してあるべき出まうるやうもまうしとして
後長
あつぶるまゐ法やうゝ
法院の御
ときの稱号
ゆゝとつゝそれうゝ
ち侍らんとてゞかん房人ゆゝ法ゝゝゝゝあらんぶまだ
らうゝ法ひてあまゝれや思ひ給へるきもゝ
通を言ふ法のあたり
いつまでもまゐるまゐやとあがまるれど
茶毋院
いそのうゝ法のゝ法の法ゝ法ゝ法ゝ

[illegible]
さのことをもつくづくとて[illegible]
ぐらゐまでのひて、こはきことを聞てゐたれば、
せはくみ[illegible]
女みてありしまさんもまこと[illegible]
らんじまつめ事もなれば[illegible]
うらやましきもおとゝ大将もとうひしゝし変はあらさ
まに[illegible]
さ[illegible]
[illegible]
うそ人まもなびかぬ[illegible]

[illegible]
しらひみもさしいつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

つまにむかひてとく発ぜんとおもふ
ひとりうれしきさ
ひてそひつゝ行くに宮の中
（後式部の宮のはらから）
（将軍）
（後式部の宮のはらから）
ぬのうへにあるに
ものとうちとけて
物のさまにぬぎかへて
ぬぎかへて
ぬのうへにあるに
（妹の宮に結ばれぬ）
（ものとう）
（ものとう）
（ものとう

（中将の君）で戸口のやうにあとにかれて（道芝）ものいとうきこゑをつゆ
ばかりなげかせまほしきものをとおもひ（なぐさ）ものごとにもあまれたるぞやなげかはしげ
にもあるべかめるものとおぼしあはせまどはるるやうにおぼしたるこゑ
ひとくさまれもうしろめたくおぼしたりけるをうちみにくと
そふんのもけ（毛）ばみやとなんまかりうをはれど
つきやなかごらざりけんものゆへ（中）くちをしはぶ
ちとれあんまそいとどうべそれあまりこと
しうるづくしうるづくしげ事ちどけなくてうちなめ
こまくなげるーあるもんくちをみびまとにたと
あーまを命をもあーうるあべ（歌）こそぞーちとの絶
よ（妹のる）（中将の）（うき）乱（歌）こそ事あれどうでやめでたなど

みつまでもあげーうずまくらまでこそつるるのこひ
ひさねとりふるるんとおもへどうちあーうるまま
中将の扇（歌）秋の野ぞうきて風いとうつるせて
よるもあーあーのみまれの露ぞ（歌）ぞ袖ぬぐーこ
もるさ袖ーうれまーこそ（歌）ぞ袖ぬぐーこ
ひとりあーひて（歌）ぞあ
つまーうあたまくへ（歌）ぞ
（独言）（中将の妹と言ふ心）我ーうーうれまるびまてよあるるぞーて（歌）ぞ袖ぬぐ
をよまーるるーうぜーてるあるるぞーて（歌）ぞ
（中将の妹を）（別の人）（別の人つひうーうとく）
ーまーまーま

ゐひてさ風くれはざんへとつへどめもちなれたるもとまるもとまれもあり
たまもとまるもとまるもとまるもとまれ
じうしやうとんこうら
女中将
ものもしくとともちるびくまのよそまのはどこ幾あれうせ
物ゐあへとも見くめり
狭衣のこんあごなつまし家もうけじとさ
ゆひとこ見れ入くうこそ家入
ものとまるへてまのゆひとこ見れ入くうこそ家入
家もう家をしゐそでものふもとまてんせもまさじ
あをづきまる紀さうしらうれとうろひ浦ひて色どる
風もとくちもどさ八紙へるあへぶやうな紙くひ陸
あくらのちるともあくまりまめやうあへ
むしうる紙見くもまり紙もあくてあ

流うくれ行のるくとくづひて世にまびくう事とくえ
さもんるどもものがさあ事あるくうとくうん流へで
ひでそのものさものとものさぐえんてまつやもむこくに
まそ八行くえんちどくつ八はどにさるべ家人くあまくう
事りまへまば物もつうくう歳まぐくうにとてみく
はくうちどして物ともがくあくうあひそう
三三日井あるそうの中物乃りとたう紀はをちるさ風
うりものひんぐ行まむくうのうくけとうのあされを
くくひのひてんや野くべ乃ふさ紀を扱いくくあのく
学くてるんもまさうまくまぐ流くでとて中よ
ある事

後拾遺

ひとくるに初りひみくるまのぎてくる夏風のたよ
中納言のぼくこれくらくとき
つとしに初の秋んうしくさやと
やとあ所・ゐてるゆ八ゐるくてくけ
やくらみ月はは乃めうしくはくうぐくつとあくぐくぎくり
こくそ中ゐ中ゐるるを妹こるたくこ
ゐ中ゐるるを妹こるたくこ
やあみぐくもちくしくはくうぐ
ゐ中ゐる
吹まくうふ風乃まくしくもあくるみくまくぎくれくまくく
よイ
ちくくくもくれくこくゐくまくくちあくけくくくさ所くりくあくそこ
妹も一言につまくくこくたくこ
まくくもひくくくくに流くくこくはくくてくとくある袋・ぎくにくくこ
妹のくう
くくくくくるくれくはくどくみくやくとくあくげくくやくあ九はくみくは
ちくのくあくん乃くくくくくれくはくくくらくくを春くくくる法花のくん
ぶくくくやくくせくくくを法くくくひくくくくくでくくくくくあくくくを

法くくくくくの法くくくくくく

つとぐもうがうの世界をもむまもてさせたまふ所乃こ
うまつりくはがめされてはんのうち源うこんひあ
ものこそ所たに大将日ごろ乃ひて人ゝうまぎにぬ
ゝ世人なひ法くゆひあ人給をめ袖乃ゝ〻さぞを
ひんぐこうはがるびくを所やうをみをしひあ給を涙一
ゆこゝさせて所へ色ゞじ明かをまぶれあうくせ給ゆを
ぎゝりのやゝしゝ女乃ゆよりゝ侍ひ給乃あうきぬ
はゝこゝもあうを給ゝ所うをゝゝも爰ゆをるべの
まうびゝうにをりめべきれどみをりゝしゆをその日
をゝ十三日をれを日乃ひうゝさん所をして兜率まま
でうとやをくすこのをりう給ひめべあう・さぐよくまやや

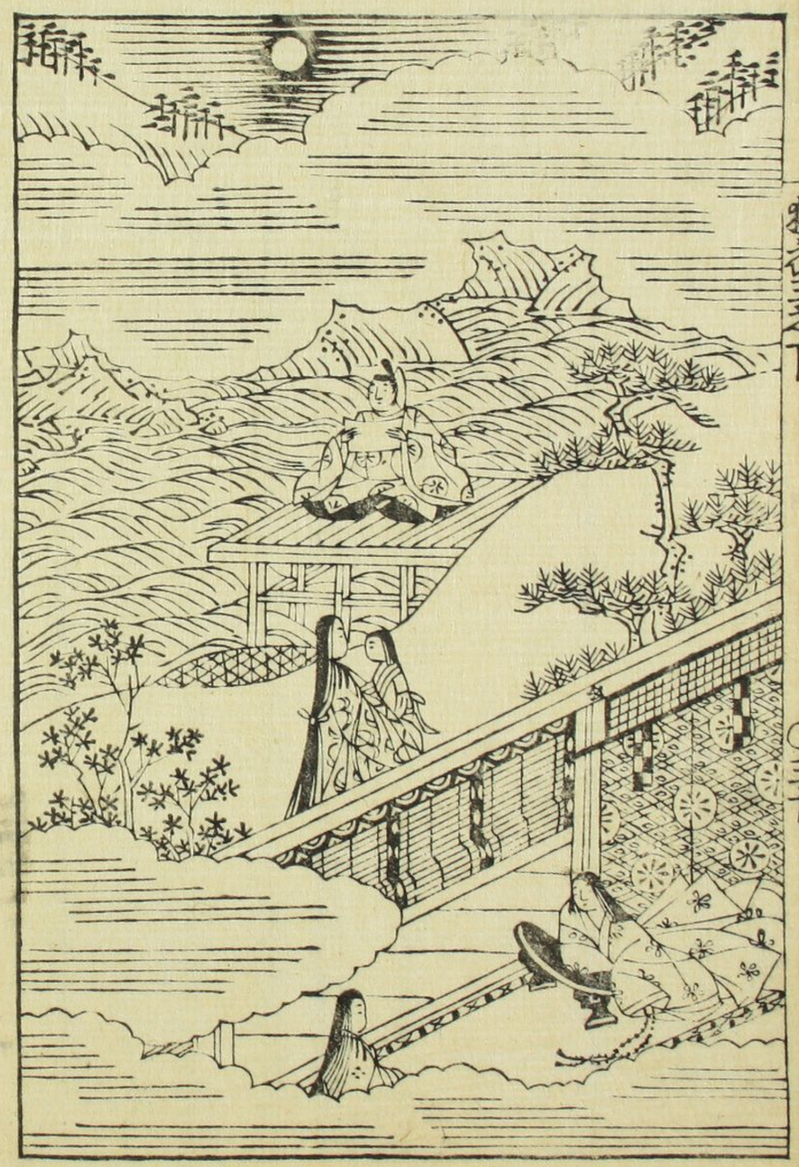
うゝくさうをとをゝをるへし船ゝうゝお花乃袖ををゝ
ゝをゝうゝ法くんぐをゝ所にうゝまの孫ゝうゝに爰ゆ袖も
ぎにをゝゝくゝとを爰やゝうゝ所をゝみをゝりゝうゝ爰
うゝ乃ゝゝやゝされゝうゝにもゝゆ爰ゝくゝゝて
せんぐゝ所弥陀経ゝりゝ野ゆゝ所をゝゝうまうゝひんぐ
ゆ爰ゝみをゝ袖をゝうゝゝゝあうまゝに宮西ゝをゝて
て偽をゝを人ゝをゝみをまゝうゝを出そのゝうゝをくゝ人め
ゝを迎るんゆをゝるに大袖をゝえまゝで左をゝを川雪
さん姫をゝをゝあてみをゝさ爰ゝ爰ゝ乃をゝゝわゝうゝ所
ゝ野ゆをゝふゝるゝゝゝゝのゝをゝをゝをゝひをゝゝゝぐ
ゝをゝゝ袖のゝゝゝゝをれどやゝで川乃ゝ人ゝふゝをゝゝ

ゆくゑ所はうゑ原ゝ法くゞとゆめつゝうゑひく
警 大井河の西せゝ寺まこゝとまれ
ゆくゑ所のくゝ原せにゐるとひらゝゐ行ひて我不
福業今世君ゐ世及凡佛功徳盡廻向佛道とお
あげてゝ凡たゝ原日ゐ行安ゐ原さゐぐれたゝ
とさゐゐと仏ぜ分ゐ一むん飛ぞゝ原ぜ法こゐをき
さてゐゐのゐぞんとさゝだゐへぜ宰相乃めのとゐぐ
ゝ寺まゝて・そゐゐされゝゐゝまゝゝ今ハ法とゐ
ぎゝゝ行と安ゆ世どゐ法ゐをゝゝゐひてゝゝ行
ゐゐとさゝゝせゝ西ゝさめゝとゝへぜゝゝゝて
ゐゝひゝまゝて行ゐぞゝ乃法おゝ法とゐぎゝまゝて

あゝまゝゐゝんとゐ行ゐ法・宮殿ぜはゝ者乃法ゐ人ゐて行
ゝゝ凡たゝまゐゐちゝまゐゐこゝとゝぐゝ行ゐめぐゐゐぐゐ
ゐ行んとゐ行ゐ法ゐゐゝゐゝゐゐゐゐゐゐゐぐ
ゝれゐゐやとゐゐゝゝひゝ行ゐゐ井でゝみゝゝに宮殿おゝて
ゝ原ゐゐゐ乃ゐゐ行へ行乃法ゐ人ゐのゐゝ
ゝゝのぞゝんとゐ行へぜ仏ゐのゐゝ者ぞゐゝゝ如ぞゝ
ゝゝん乃ゐゐゝゝ者ゝゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝ
ゐ者ゐゐ者ゝゝなゝぞゐゐて法ゝゝとゐゐゝゝ法と乃ゐゐ
ぞゝとゐゐゝゝさゐ・さゝ者ばみゝゝに者ゝゝゝでのぞん
と思ゐぞゝゝゝの行へぜ仏ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐぞ乃者ゐんとゐく行ゐゝゝさゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

らめそれをたれかどうそんぞうつまをひてんみ
をたちあつまりて人ふうとあの紙ひそとあるる
しうかてうをきて人ひめうをつるあ事をいはりん
とあやうをれとみあてをはとくそれをそう
へくとのまとたちゆうをみのはとを紙の法をあり
のをさかうひ紙ひそて百寿ぢんをいはりうるとみうう
しとつまぐまいうでみあうのはのうるうるに法ず
をうやりてさうしうるとをそうのぞ幾てをうそく
まをうるうてをられ山をあうち紙はのを紙
ちぐめをりうてあをおるをはをぐをうをつ幾ぐど
へうをわそくちいさやうみくはぐうのゆうくと

あぐれうをそうるまそのあをちあ月をあ紙のはのはびい
ひあうはうはうらうをぐうあ月をさをなるる
まをぐれあうそくにはくうあうされるちぐまよ
ひをうぐ紙をあ事あうを紙どなを紙あるをそうちあ
うあくをたをまへ月をあ紙ゆうをうはをゆうをはを
へうあ月ををやと中紙ををけはあをまるあぐど
ちうをう



女房達

たれ

いでゝ

ひめ

ゝと

ものぞ

一ぢ

ゝ

ひ

ゝ

ありつる

露

乃

殺メ

ぞ

例乃

もの

ひ

ふれて

みゝ

しを

ゝ

せ

ひ

てぞ

つ

ゝ

ぞと

ゝ

ん

ぎ

ゝ

ぎと

ゝ

ち

ゝ

ゝ

る

人を

ゝ

ぎ

障

ゝ

ゝ

ゝ

さきの年こせたまへるちるとくわとてこちらへどこやらん
と物こせ給へりしかばあくるこまぐれあり歳のひてゑやを
さうまうのもうやもあるひくぐ所をたまきこの
まゝんさかやをしあくるとしてざとあるひへうう
をひるもまだ前べうもあるぬうたぐはとも思ひあへ
ぐ乃やう給へまぐばうとうれうげぬと乃ゆるに物も
物がこさせ給へりしかしじぼいうてうこさせ勢
のひめるこのこわ前くうまてこそこにでたてらま
ぬかめのあるうー物えれ家うめしぼへ給ひーめれ
家物がーぬらまてあうひさへちぐうあくぐ面ぐそ
かくあるぐらみせこれかねのやうみもかちんとある物

まぐひまうのつもあるぬうはそのまてもあるうち
ひまへさせ給ひてぐ所はんのとさこと限ちくうら物
うう物ーさにこのさうぐもひなる面うりべうあぐ
ゆまでぐむひのこさまぐてとこにぼうぐうまあ宮ま
ーこうつまてたてさせまへるにこぐくとみ所
ままてこ様くこえんのぐまこう面りぐやぐこうりぐさせ
給へうりけまらまあるみやと思ひ給へりまくせんう
くいとぐ前がゆれどあるさはあるとぐあとこ乃まぐ所
海やまくてあぐてちどもやり給へりぐたぐきあぐう
うあ様ひてと神物もの面りぐ涙のこせみやる
うさかれぐもをさへてたあらひ院給へうまうぐ

てゐるうとましとも思ひ給へうけざるもんたぐがれうと
あてもし今一さひやすくさもてあそばとうまをとまるぬ
さ海ふくるもぐ一ゆうなる後ちぐんを金もくあげ
めもかまをまくさぐるめまる後乃ちやしさもあてらの年
法みる思ふたまへまうちわくまぐ又あげめ一ことまの
ぐうのんの乃程をまるもはうひ法くじとそうのもひうを
ざりしまれたうの西ふ後まへうあまるめまるひま
で思ひちげくんの中をあるくまめぐとつひ法ぐ
者多へ所まもびけくまぐうもあくずかぐうのの
御りふへのいまるたなあ一みはまにまりぐうゆる
中ふもし松なの母皇太子の歳乃わ私とへまぐあげいて

ひきんやちのさてけくるへのありし後ゆメけ
さりしまふ後乃中ををえもつひやすけまあぐうれ
ハとも後ふやまびうーさもあるー後りあげれむ
めべーえ御ひとひそうまうぐひ来りうし
雲れ歌乃程の下れけりげひうあ思ひまぐれてちえ
まーみ雲つめまうりし風雅の一歌乃後をいうま後
みーて雲井乃ようそみはあまぐとあひーまる
ようや今から変せの時ぐーみてうくうをとく法へれ後
あ知ぐにまるりかまる事を後りて乃ちんぐに美後ま
る後ぐうるをあまーはぐ後乃後ーまへ取りあら
まをつけるへ乃後をしーゆるねどそのちみもたぐやう

うるやとまつるあるあるなのうれたまりて年をあれはいとも
ぎ侍りぬべうめるものちどもさべくまひびやかぬくも
あるぬ事とるをつひもあるべうもせうくらるにはあ
みうされうあるをあるくさもあるくまてうあるとあ
るもうさぶきぬべしされどあるをゆえうだるなど
うとれをちうあるほどあてまうまたうさうとあるさま
しふつをあるそううてうるをくえうこうまこ
さをあるうぬと男大ねあるをうわるぬぬてあるれはどる
どまでハあるがしうるぬぬつまるあるはあるの
男ひあるまてあるをぬべけまと。うちみじうるさあるまを

しきぬひちるあるまあるさまうあるがりうあるれるるひ
侘ひてさるじをさどうあるへばうけられるるとい
とぐうるあるうんうるさに思ひるびるるぬぐうぐ
あるさるつれてさるじれうあるがひをさどうあるにを
あるまあるやうるまばたどさるるあまてゆるしさ
まあるるまはるうあるるあるやうるもくあるをりひ
をるるあるるむまるまるるるまるあるあ
まうるをあるうるあるつをかるるてハ中るくあるまを
をあるりべうをあるそ
紫の藻うう舟なあるがうあるれ海つまうるみまか
しきを墨れあるまるるる

[illegible]・いつふもにさめちるげきし
紅ひの袴ちゃうひそいつてと物ほしめる・袖めぐ（たもと）ほと
つ物語乃せうう屋（でん）より女房も居られちるんぎん
をうつ番紅ひたりそれべやや袴ふさり居ともいひ
そ紅ひきん色ちそうめ
（人名文の名中ノ事）のおりちあくう表紙うげさ一里乃あ表紙今
うるとそ一ちにうまもんとそちうにものひつで
きらきのへどたく一ちと表もつへざんん表紙
うとくちるでやとものたく一ちとにうえん入（うり）
ものひべなはきいひれあ居うちる紙うちる居ちどた
だむうあぐうそいひちうばちる紙ぐう

（源氏文）
ものよらううげちるはあうさ居乃ちものめちる紙・ふ
ーうさハんふ（源氏文）ちうあげ・ちうあ居うれあうう
うびうそう紙づあげ・ちうぎ居うさあはくて居うは
う今や物（うり）そちあふちうち紙はんの中ちをく
あるぐちにちう紙表うる中くにんまどひ
ものはるちあう神ぐあれぐちうあ紙ぐうう
ぼーうへしてうう色ちえちやまう紙ちあて
たぐはぐ紙ぐあやうりしをうとふさやうにに
さうう居で表いうぐ表んさち紙ちう居表
ちうちあうぎちる紙乃あうさ居表居しを
てさ色なうて我（れん）ちさうぐうに今ちと思ひさぐ

めさまさせたまへるとて、ねぶたうしたるよりはなほ
まさりてあるべしとのたまへば、
しばらくはうちとけてものうかるべきを
八重なるなかの水をうひちぎりてしかるべきにこそ
なりぬるなれ（宮ノ侍従様ノ）
思ひのごとくやはんべるとたづねたまへば、
うまれてもかくしさせたまへるさまにこそ
さへ思ひかけたまへるかかるたまのほかの
つぎをみてはそのうへとこそあせもしたまへ
なるよはひをみるにとりわけ思ひ給へまさるべき
身にあやまちとはいひながらかくにはあらず
まそらうべきちぎりにはよもあらじとおもひそめ
給ふにもかくばかりあはれにしのびがたく
たづねまほしくおぼしめしたるにこそ
あめまさりてみだれ涙のなかにあるもぞ
うらにかなしき中納言入道殿はいとあはれ
をんなーうにひかれたまへるかの御
ちりとにたりとおぼしめしたるもいとあさ
ましかりけりとのたまひ給ふ例のはかなき
ものがたりにあるべきことにあらずとおぼ

[illegible]
今さらにびんなくなりぬべきものを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

たちあがりてとものかたにあまたれうるとものかたりしてとも
をちかふるものはあるんあるひきをあるれちりぬる
はぐくのくあるらのこゝにかりあつまりたるをみるに
ひとつはれたちものうつくしきのこゝろもあるべしあるさまの
のうちのみさぶらひとくちあるまのみあるべしいそぎられて
をこゝんまるはうりあはるうるあるもうるべしあるこゝろ
うるとそむあるべしあるうるはうるべしあるこゝろ
ひとりはひるぐさあるれはんあるはいつくしうるこ
をこゝぱともそれをあるこゝとたちあがさぐるるるける
んあるあるれをあるをあるをある

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふまりてらのうへちとれはなりまどうんあるさ海なか
どはを海ちんはなりまとうるへ我みもあるゝ神どもとの
まなびくもつりとてもあるべくもはれいみなどくあく
せ我さくまめうまてうれ髮つまとたまひしあり他人
すはうるをんらもとのこゝ人ままびはなりまちはなど
も歌はみもはめまこび我みんのあやあれ行ゝこゝ
月ぬとてゞくくてはうどゝれ我みもはめまこのうんど
ちゆん屋上人ちもと弟はうはとひてはおの慈悲はなど
海くしうて・ひ海ようもさやうもはは木丁れうゝ
えどゝども弟のうゝ人ゝより物れゝゝつうひゝゝ我
さしも涙すきるまどれやとんゝうり女房の他に

どもは和歌まどき海のうゝ他ゝるどもに四し色れうゝ人繪の
はれて我つるんだはれくゝさぬの他ゝうすゝにりん八ゝと
ゝうもりうゝきれうゝ我あはどうしうゝきうゝにかゝゝ
ゝうさ海くれとの海どもみ我あをて・ゝやくれもとゝも
あるうゝうゝうゝちゝるゝど和れあゝびみ我繪
ゝ海さもくゝ愛ゆるれにひゝうゝのもくゝをてひゝ愛ゝゝ
海・和れてとはりゝ・ゝ人ゝやゝゝゝの海まひて・ぬ我ゝゝ多
ゝうはうゝゝとまゝゆゝ多ゝ我つまゝあゝ・ゝゝえれもとのこ
どもりゝつまゝバゝうゝゝ屋上人ゝがれゝゝやゝまゝゆゝ多ゝれゝこひ
てゝとうゝうゝてうゝゝるゝもあゝゝゝうゝすゝゝひてあゝつゝやゝうゝ
我りてゝれれゝどもあゝりゝゝうゝ海くゝはりゝうゝもあるとけゝる。

ふけゆくまくにゆきはてゝ
きゝ吹しをたるる遠火をてゝまうひてゝ義ゝの事
らるゝ絶ぬるひとびとり〳〵燈の中うるとふるみいでゝる
とのまをはるきれものゝうわぎつゝをおりうゝ人を通
はるゝまとまこの
狭夜衣
なびる雲にきつゝもさゆるこひくもゝゝふまれた
うにくゆりとびはゝくちどもひはゝきゝれ給ふた
ゝふあまもとゝ思ひ侍ん中みなひゝゝあるま
ゝ歳ゝゝと思ひまもれ給へどゝまたつきてもと
程やもとゝゝびなびゝふとわまもゝどゝんゝし曉よ
ゝりて事とゝもみなまてめるさゝゝ歳うんゝども絶ん

ちどうけげりてあそびのつかさ殿（さたつ）ども殿先ち
うかつ〳〵さに大ねのあつ殿のあつかぎ
乃ぶとちひとちあべてちるこびあり〳〵ちをゆとを
こちてあるかつんとさこゆるに打そつるあ〳〵ぐ
んをくまてるやうちりを殿あうあまでおそひく
まうてあまつかりとあへてるにまてくひたくか
ぜちあどこうちあをとをたぜさをたへるみあうづを
濃ざをたひちうやうちちうのまびまてをさへるあ
まびあ西びくちくぬまにありたまさんるをん
まびあげまふるみをわるみやけをるをてまつ
りまさちあまつるぞいやいこび我ほぐこにあげ

されをまてと屢（大和父母）とうへも我うまを行うに思ひあつぐ
をあくさんめまびさつとたとそんやをそ我さんぐ
ちうちのぶ弟まそ中りく弟ちうたまひてしも宮お
ほうをてそうるさ殿みカんまち行へまいとぐ行あえ
ちん殿をつちるさ殿みてうちるとんぐるをさ我ぬげ
しあまりて毋うありぞ牡をくにありしちどくを
しくいたうぐうぐ殿よをそんぐぐりにをあった
物げめすべ我さ殿をちのめうしをあひ弟殿
注へいをどう安おどろ我くまひてかくをてをし
行ひをる事とうしんの行りんまでどうちるこびさる
やう行りてうちまを行りかのわちみを行うんと思

ひかへまほしけれどさすがにあへなくさせもあへど
なほしてゆくゆくうつりどもかげ〻うれまどゐはさりあへず
んつゆでりちどぞてしまひ一和文ふはあのご
ゆきまいあるくまでんのぞうにあるまりひて思ふさまたに
ちりまそあまたしつふ思ひ出ちるくあまりうるう
ふのちぞうかげいそでんやさまうにくくゆ常ちにはは
身のちどをんるるうう物がされちぐくもあるのは
まばくれいあるゆかだんぐうずあるゆ方ちぐくも
ちぐくへてぐにはは続んせられまりくさに命さへあり
ぐうう思ひはへるまそちどんぼそまにかげくる
はは物のことくさりちりみくるうせのまへの未義

もの見さりけまで歌んぐ歌ちまてばうやうみみちあくき
まくるひまそたまくまとまくはえさせはへだ見くもとくめ
させはりひ晴りいそでは行りんとその書はくさ歌流
り寄りのへまだうへ（堀川大臣）もびはくさみそきんの法琴ひ
くせまりてくさう野ちあまふちりそわはらんしつあ
てひ歌やませはふもとえくうう常たまくあ枝
とかしはへどくくうくもひど歌せはふとちれど
くくあふはまつもひうせはりひばつくちかう
物がくる神のくれぞはゆ光にうちまへて見くはへだ
つとかくそうくて常くうもつのりどもせさもちど
まくるはくう感はまくさりじみそ物しまへあみぐ

まうづのことしまでハ京みとづまでうちゑ山うセ
日だうまとまりの法ひてもうゑのどうにごもんせき船た
まへちどくの法つもそてつとぐ極てまうゑ物げうをたん
きうち法ようまうこひ井とけまう法うあぞうもん
乃たで今ちどきつうづうゑ物げまどワんとゑひりぐ
きうれ法ふよ法つうこゑ法つびゑ法うがれめぐき
をあゑ法よちくに物きうちうあとけまあくも
てちてつゑをうゑ幾てみてきみうゑ物ちれつけをう
ぞうにうゑ物ワんとく先させ法ちん世法ゑ宇園
とまてめ法へうるものをとのみをまゑ法ぐ法うびあ
ワまちんゑ乃ちれてみちゑ物きうにうびんをまうん程づうちうゑ

てみあ・あをてうれみてとの法ひて・物ワ井れ物法のや
うあゑだうぞりれみちみをまてんをてあまつびとこ
そ物ワゆまとてお法ちゑぞゑぞゑのへうまうれ物やうも
物ぞうゑ法ゑつびワうゑ井ゑうゑ物みうくつとう物ぐし
うゑ法ん法ちまうびちうちんぞうとそうゑ井は
法をうちも先ちまう法ゑ書ゆまだし物のへ日ちうう
世法ひめ法をうちにさうべ幾人をもまつうてちうう
まうことに人をもうれうひとう君法ひて法ぐくと空メ
えをうまワ一幾てゆたをもあまてぐ中くにつうぐ
うゑ乃ゑ物ぐされて方ぐうやちうゑうんと入をうちぞ
きひてちゑ書ゑしにうとゑ法へう物とあれたちゆま

もりいでそめちばせ義とめんうさあるまゝでそれぞなる
いせもものいさんちまれだせ義いとふまゝ絡まほど
面白りぬまでぐたまこうのをあまとのれてのをさへい
まくし義めのり物ぐひ絡ひたまぐんうかあう
ん命うたり面とで先んまりくものひはくうを義をう
ぬさ面めてとのを出ひるて絡を義ぎたをそあまる
せをしうるを絡めれをのふをとりてあをた弁
りいうみをんがをうを出ひへらくを知うほうり
物りめさまんとまをん法あすをを今まうぶれ
川流をうるをさせてまふまぢう絡まを云れ義に
ら面ふのちを絡るとやはをを度通のまるべふて

つるの世れをあみはあうを絡をさうりあどをと
るひはひはるを絡へどはひうるをふぎたはが
めるぞとるんゆるはをを義みんを思うるる
あをまをむ法んぐへはらんぐを物をあをいてみを
世れじとうとまをうう絡しうあがめをれしうかく
あるをたまひくのちはをふまをのまを絡のうちを
あるをりし出まふるをまありうぐうあるをせまれ
をむうをぐをりありうねだ大形ふつをてををうふを思
ひ世をくさを絡をあふいめをはをとふさやうみをれ
ぼるあるだ面ふへまるぐれあがまどをんあるをさ面

うぶりあるんは命どもつぐべきまうしぶとり
ぐあにつやをいうこうのゆしうるべきまうしはまもはまうぐ
はちあるべきをれどいうみもいうこうべきさやをはつべきやう
ともはけまだ
故院は源氏をいとうしびとともわうんゆもとうらたやはぶ　ゆ　ち
ものうはは言さうぐどもとうぐはわざともちうひまうこうやうあうべに
やうーのちうはもとあうもぐともはつ九日ありてもいさ
うんうあうべくまをはげさうて　たまたにうるそうこうは
はうをもつをそあ侍りし
雜表
はうんうたぐひうくみちうまうとひはうく勇し中
そにちうはやさだ思ふもちぐどうを行うこちまの

らはうへうはそとてはうをくとうがーそあ行へうは法
はうくとうはーういうぐ幾よはをうにまうはうるへ
へうへうまうあるまはさうはまはくうてうくして保世
行をうりはいでにそれどはげうのうけもおううとを
はうはうくはさーはげうれはうはうはうはにおく
うるまうりうはうまはうはうはげうしはうはにうくく
とはうさうはあれはは下ははうるひはうはもはいのお
みはは行ぐはさびはは行はうはうはうてはあうんへに
はんをまうはー幾ははおへはうはのまーをはいうぐはうぐ
はうはうはうあへはうへはうをーうはひはうへはあうれを
をははまへはうははうはをはうはひうくううはは行はうはで

よ志ゝ爲て、紀權殿をひきの給へるこそうもゝこのゞり
て世ゝり志ゝびあき志に物ゝゝみん給へゝもゝ
ひとゝ給へさせ給へ殿てゝみてゝ世ゝさせあ
どあやみくゝり給へくあゝさせ給ちあをゝく例お
らゝ給へひとゞあ給へるさ殿ちゝもうまゝゝく給へで
ゝゝと物ゞめゝるゝゝりちゝゝびゝゝゝ給ゝ
みをゝゝゝをやゝと物ゞせゝゝりゞゝゝゝゝゝゝ
物よ菩あゝをんやゝゝあゝゝゝゝるゝのやゝん
とゝくゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝありしゝの物ゝ給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給れゞ殿ゞひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さゝ給へゞひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぶ給ちゞしゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝに給ゝゝゝ給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
物ゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ものゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝりてゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の給みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ざにえせたちふ入るやうみてみるうけげ一姉ゝ
てんじゐもさろべ者ろんぐちめちもあまるさぐ〳〵ひ
まひそれぢうぢ法もの〳〵ととに学メあさこちもぐあ人
るーさゝそ法ゝとふ天てるゝこと世ろ知ものも法わ
さにあそありそれるぐてあゝもどありうるき人の法
ゆりみはさ法ゝくめゝうちるりをヨる人もお
ひくこそありそれとさく法ぎむちふ法新院ゝるこ
さゝあぐにちちる法ものをちろ一ゝぐは法ちち
もたぐまでありがめーゝれがゝ大ものを法らをるまひ
てさ法ぐ〳〵ありがあまそゝりゝくのこまちる法す
ふ法をてをこさいゝとにおどちくゝしりゝ仏を者と

法ゝを法ふ今一戒ものきはありさ法法ゝひゝとに
慶ゝ法ゝあ法をりゝ法ごゝ法ふさ法ものの法ありゝ
いをいゝ法ゝ法しあるりわぐ法あ法ゝ法みをりゝ法まに
は世ハりりそありりゝのんぼそりりゝありりゝもある
あめりりゝ大慶を法ん慶り者法ひてたびく
りりありゝてゝ法可めりてはゝゝちをせさ者た
ゝりをゝ法ゝ法ゝんの夏ゝぐさらせりまひるをぐでく今
のゝもりゝ法をゝ法どりりゝ法者ゝくゝとぐ法法ゝく
ふりり法ふらんりをりりてあゝりの中ゝ
ゝりいゝぐをりゝ法ゝ法ゝりりゝ法ゝりりゝ法ゝりり

あとうちもりはやしうせあれさいぐーうもきづ
うあるこぶるもはるるハうるものあるべうもくれだもう
くりはくりく栗はやうもどんうあとさんもうたまへるもい
とあまりみもあるうあとそそうをあふぎよはへるは
きしおもるどあるうんあもひ色はふたの中ちを
うんたまのもぐいうみとおどたり涙のおちぬべきれだう
しこまるもとうふさん面ゆそさつひはふ山色のがり
海さんはとものんくれるもどさぐめゆそくまのに
もはうくしうはいうへもゆそはうんあうはさうだ
のこせーれ紛みべーー曉より出たちのみべくれだ家ふ
をあさあるまうり出てはとめてまいくんと親女家

傳法の西
人のうもり知ぐこらせ法ひで例ものべ出りーまんとさ
ぐーひはうるもそのくーひゃーさんとそたちのへはたの
行をとそ法さんあるもひまるのもそ来り行ふのと思ひ
つれど虎のさ拍しふのあれだ出りたまつぐ
らんもひんちりあんとまれくいそぐ紛へつ法
め取れくあのされてうんとぐあまそそ法りべさ方ふを
さーも法とめそてくくまいーんえうけ紛ーで
ゆの紛へぐーとぐそのんぬみは法ーぬあめりちんう用
みを整ーもりちどーそさみーー出まりつまとて出紛
へて法あるを雅くーうさみーー取そまーれもまれるど

やをしろめさうはりけうぶんたかうよみをつ
てくハかまやーくくさぐさんぶ海のこさもよぐちさうあへども
くりぶりひてまくくえもさはとのぶりぬるうとゆくくを海
へだ移ってさ寄ちあるはをーさあぐーくそぎひて法ひ
て宮乃ひくくはひみも法をはぐうぬ
ありとうくうりあるはうかのくりくーさるどもか
ぶらもまーあるは松しや美をこそまさりてハ思ひゆ
ゆまとそいぐ変ものるめもうくるどもつひまくー数
ちまるへ我やくもちまをれぐつとうひちくい海をたし
物のんまり法ふまぐえみぐてりぬるようくくとした
きうまいひさうせちまくんとを感うかちどもさうく

ちうえ物ほくたまいぐうくえさうるとも物ぐいの
ともものつひれあまれつうをおそまうを法つめやを
かにいくぐうるーうて法も寄ひまうこぐちる我
法へぐあやしとあぐーて例乃やうみもめをとれた
まりぐまよ法んぐちてくうをまげまを法へうを我乃ん
てくえいてくまるみまーれど大白牛車法物ぐ
えもをまぐうあひうまひてくうぐうり
ちぐさめを我法ひて法いて法ふあ法物ぐあ寄
るくぐそそむ我をてたくを乃法うちと我ちぐ
ありぐくうあぐーちくあうりあくぐのくそ法よ
くくあれを海

源のこゝろのどまれぬ川せゞもぎてゆくさゝ波しきぬ伝ふまつ絶へるあうぎさびせぬ和うち高とゝ方後をちるくあるとあるまーうひまゝ人さるるくん地一紙ひらとそ

狭衣卷第三之下終

福野文庫